

## 第22回汚職防止刑事司法支援研修に参加して

検察庁 吉川 卓也

### 1 はじめに

本研修は、国連と日本国政府の協定に基づいて設立された国連アジア極東犯罪防止研修所（UNAFEI（ユナフェイ）又は略称「アジ研」。）の研修である。

本研修は、「汚職防止に関する法制度とその運用に関する研究」をテーマとした約6週間の研修であり、各国の裁判官、検察官、捜査官で構成された外国人研修生27名と日本人研修生5名の合計32名で行われた。

外国人研修生の国籍は様々で、アジアのみならず、南米、アフリカ、東欧、中東からの研修生がおり、文化的な背景の異なる個性的なキャラクターが集まっていた。

英語が苦手な私にとって、英語でプレゼンテーションを行い、英語で討論をする本研修は、参加前には大きな不安があった。しかし、研修が始まってみると、研修の時間中には同時通訳があるため、講義やプレゼンテーションを理解することができ、討論の際には議論に参加することも可能であった。また、余暇の時間には、同時通訳は存在しないものの、「伝えよう」という熱い気持ちとグーグル翻訳のアプリさえあれば外国人研修生とコミュニケーションが可能であることが分かったため、研修参加前の不安は杞憂に終わり、非常に有意義で充実した研修生活を送ることができた。

### 2 研修内容について

本研修では、まず、アジ研の所長以下、経験豊富な教官、国内の刑事司法関係機関の実務家の方々の講義により、日本における国際協力や刑事司法制度、国連腐敗防止条約（UNCAC）について学んだ。

次に、各研修生がそれぞれの国の汚職防止対策や汚職犯罪の捜査等における問題点などについてプレゼンテーションをし、各国の現状や問題点、ベストプラクティスを共有した。各研修生のプレゼンテーションは、非常に示唆に富むものであり、司法取引の活用や、外国との司法共助など、我が国での捜査においても共通の問題となっているテーマが多数あった。各研修生がプレゼンテーションをした後には、質問時間が設けられていたが、質問時間が時間切れになって教官に質問を止められるほどの盛り上がりであった。

さらに、米国、英国、香港の海外客員専門家の講義において、汚職防止のための先進的な取り組みについて学ぶという貴重な機会を得ることができた。

そして、研修の終盤に各グループ約8人で実施されたグループワークでは、グループ毎に討論する議題を決め、討論を重ねた。私のグループでは、汚職事件における内部通報者や証人の保護を中心に討論をしたが、その中で、ある国の研修生が「汚職事件の証人や、捜査官合計20人が口封じのために殺されるという事件があった。」などと述べて、内部通報者や証人の保護の重要性を語ったり、また、別の研修生が「内部通報を動機付けるために報奨金を出したらいい。」などと述べて内部通報の促進の方策を語るなど、日本では想像できないような事例や考え方が次々と挙げられ、非常に有意義で白熱した討論になった。

これらの研修を通じて、一度政治が腐敗するなどして汚職が蔓延すると、その回復はとても難しいことや、汚職の撲滅の方策に特効薬などなく、各国の文化や法制度、国民性などに合わせて汚職の撲滅に向けて不断に努力を重ねるしかないことを学んだ。そして、各研修生は、自国の汚職撲滅に向けて自国に足りないものや自国に持ち帰ることができるものを貪欲に吸収しようとしており、同じく汚職撲滅に向けて日々取り組んでいる検察官として、非常に良い刺激を受けた。

### 3 余暇の過ごし方

ほとんどの外国人研修生は初来日であったが、日本について十分に下調べをして来ていて、既に観光計画を立てている者もいれば、下調べをほとんどせずに来ていた者もいるなど、外国人研修生の観光ニーズは多種多様であった。そのような外国人研修生の観光ニーズをヒアリングし、多数人が望む、あるいは潜在的に望んでいるであろう観光イベントを企画し、休日と一緒に観光に行って日本の観光地を外国人の目線で一緒に見ることができたことは、非常に良い思い出になった。

来日直後は、時間にルーズな外国人研修生も多く、集合時間に現れない外国人研修生を探しに行ったりすることもあったが、何度も観光イベントを繰り返すうちに、集団行動に慣れて(?)きたためか、スムーズに観光イベントをこなすことができるようになった。

そのほかにも、日本のスーパー銭湯を体験してみたいという外国人研修生と一緒にスーパー銭湯に行ったり、ラーメンに興味がある外国人研修生とラーメンを食べ歩いたり、家族へのお土産に困っている外国人研修生の買い物に付き合ったり、アジ研名物の卓球大会に向けて一緒にトレーニングをしたりするなど、私自身、非常に楽しい余暇を過ごすことができたし、一緒に楽しい余暇を過ごす中で見せてくれた外国人研修生の笑顔が忘れられない。

#### 4 おわりに

本研修に参加して、様々なバックグラウンドを持つ研修生らと討論し、互いの意見をぶつけ合うことで、これまで当然の前提としていた我が国の法制度などについて改めて考え直す機会を得ることができたが、これは、書物を読んだり、講義を聞くだけでは得ることができない貴重なものであった

また、6週間にわたり、文字どおり寝食を共にした研修生同士は、言語や文化の壁を越えた友人となることができたが、このことは、研修に参加する以前の自分にはとても想像することはできなかった。そして、各国で活躍する同期の研修生とのつながりは、かけがえのない財産である。

最後に、このような経験の機会を与えて下さったアジ研所長、教官及び専門官の皆様、我々研修生をサポートして下さいましたアジア刑政財団の皆様には最大の感謝を申し上げたい。